

公開授業	3 年 組	授業者	嶋 崎 彩
主題名	思いやる心 (2 - 友情・信頼、助け合い)		
資料名	赤いお守り		
ねらい	友達の美雪は、自分のことを大切に思っていたからこそ宿題を見せてくれなかったことに気付く千春の心の変容をとらえることによって、友達同士互いに信頼し、励まし合おうとする心情を育てる。		
	基本発問と予想される児童生徒の反応	指 導 ・ 援 助	
導 入	<p>(1)友達について考える。 友達というのは、どんな人だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく遊ぶ人。 ・仲良しの人。 ・遊びで仲間に入れてくれる人。 ・話していて楽しい人。 ・困っているときに助けてくれる人。 ・励ましてくれる人。 		
展 開 前 段	<p>(2)資料「赤いお守り」を通して話し合う。 美雪に「悪いけど今度は見せてあげないことにするわ。」と断られ、強い調子で注意された時、千春はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじわるだな。 ・どうして見せてくれないの。 ・友達なんだから見せてくれたっていいじゃない。 ・そんなの友達じゃない。 ・今度美雪さんが頼んだって、聞いてあげない。 ・もう、美雪さんなんか嫌いだ。 ・もう口をきかないし、一緒に帰らない。 <p>美雪から届いた赤いお守りをぎゅっと握りしめながら、千春はどんなことを思っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美雪さん、ありがとう。 ・わたしのことを応援してくれていたのね。 ・宿題を見せてくれなかったことを怒ってごめんなさい。 ・宿題を見せてくれなかったのは、わたしのためを思っていたことだったのね。 ・美雪さんのような友達がいて、私は幸せだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千春と美雪の友達関係の始まりについて説明してから、資料を紹介する。 ・役割演技をし、千春の思いを一言言えた子から座るようにする。 ・表情の変化がはっきり分かる場面絵を掲示する。 ・子どもたちの意見をできるだけたくさん語らせる。 (同じ意見や付け足しの意見をつなげていく。) ・子どもたちの意見が出尽くしたところで、千春の気持ちを確かめながら板書をする。 ・補助発問として、 「美雪さんは、どんな気持ちで見せなかったのですか。」 「美雪さんは、千春さんにいじわるをしたのですか。」 「美雪さんは、どうして見せてあげないと言ったのでしょうか。」 「みんなだったら、美雪さんのように言えますか。」 など発問し、互いを理解し、信頼することにあこがれを持たせる。 	
展 開 後 段	<p>(3)友達について振り返る。 千春さんに手紙を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美雪さんは、千春さんのことを思って、宿題を見せなかったんだよ。 ・自分のことを大切に思ってくれる友達がいて、よかったね。 		
終 末	<p>(4)教師の説話を聞く。</p>		

内容項目
 友達は互いに理解し、信頼し、助け合おうとする。

資料の分析

- ・ そろばんの検定試験を目前にした主人公の千春を励ます美雪。2人とも4月に転校してきたばかりで境遇が同じことから、学級のみんなからうらやましがられるほどの仲よしである。仲良しの友達がいることに対して、「いいなあ。」と素直に共感できる場面である。
- ・ ある日の朝、宿題のことを忘れていた千春は、仲良しの美雪「宿題を見せて。」と頼む。美雪はしばらく考え、「今度は見せてあげないことにするわ。」「少し気をつけたほうがいいわ!」と、強い調子で言う。いつもと違う美雪の態度に驚く千春に共感し、だんだん美雪のことが憎らしく思えてきた千春の心情の変化をとらえて語らせることのできる場面である。
- ・ 美雪から一通の手紙が届く。赤いお守りをにぎりしめている千春の心情を考えることで、真の友情について気付かせることができる場面である。

児童の実態と意識の要因

- ・ 3年生になると、気の合う友だち同士で仲間関係を築く傾向が出てくる。特定の仲良しの友だちができると、その間に友情も芽生え始める。友だちのよさは、一緒に遊ぶことや分からない時に教えてくれること、困った時に優しくしてくれたり、助けてくれたりすることなどに見出している。これは、自分にとって心地よい影響を与えてくれる存在を、自然に受け入れられるところに起因していると考えられる。
- ・ 共に相手の向上を願って励まし合うことの大切さは理解しているが、仲のよい友だちに忠告したり、悪い面を指摘したりすることによって高まり合おうとする体験はあまりない。これは、「こんなこと言ったら、怒るかもしれない。」「嫌な気持ちになるし、友だちに嫌われるかもしれない。」と、自分本位な意識が働いたり、「友だちだから、これぐらい、まあいいや。」という甘い考えで関係を築いてきていたりするところに起因していると考えられる。

価値の分析

- ・ 「互いに理解し、信頼し、助け合おうとする」児童を育てようとする内容項目である。
- ・ 児童が自立して生きていくための基盤は、人との信頼関係が築けているかどうかであると考えられる。誰しも、一人では生きていけない。家族や友だちなどのさまざまな信頼関係で結ばれている仲間がいるからこそ、人としての喜びを味わうことができ、生活に潤いと活力が生まれてくるのだと思う。
- ・ 友だちとの信頼関係は、互いに相手の立場に立ち、相手のことを思いやったり助け合ったりすることから築き上げられる。そして、共に向上しようとする気持ちの中で深まりあうものである。しかし、表面的な仲のよさにだけとらわれて、相手を思って忠告したりすることをためらったり、また、注意されたことを不満に思い、友だち関係を崩すことがある。真の友情について考えさせたい。

ねらい

- ・ 友達の美雪は、自分のことを大切に思っていたからこそ宿題を見せてくれなかったことに気付く千春の心の変容をとらえることによって、友達同士互いに信頼し、励まし合おうとする心情を育てる。

展開の構想

- ・ 美雪に宿題を見せてもらうことを断られた千春の気持ちを考えさせる中で、「友達なのにどうして?」という思いが、だんだん憎らしい思いになっていったことに共感させる。
- ・ 赤いお守りに込められた美雪の心を知り、自分のことを大切に思ってくれていたからこそ、宿題を見せてくれなかったことに気付く千春を通して、友達に対する今までの自分の考え方を振り返らせる。

基本発問(中心発問)

美雪に「悪いけど今度は見せてあげないことにするわ。」と断られ、強い調子で注意された時、千春はどんなことを思ったでしょう。美雪から届いた赤いお守りをぎゅっと握りしめながら、千春はどんなことを思っていたでしょう。